

楡の会の経営について

事務局事務次長 菊地 和宏

皆さんお疲れ様です。昨年もやっていますけれども、今年も緊張しています。聞き苦しい点等多々あるかと思いますが、ご容赦いただければと思っております。私の分担は財務諸表の読み方というのと、26年度の決算報告、それと27年度の決算見込み、28年度の予算という形で進めていきたいと思っております。

1. 財務諸表の読み方

まず財務諸表三表というのが出てて、『事業活動収支計算書』と『貸借対照表』、及び、『資金収支計算書』の読み方について説明させていただきます。

始めに『事業活動収支計算書』。プロフィット&ロスステートメント(*Profit and Loss statement*)と言いまして、略してP/Lです。『事業活動収支計算書』は、収入から支出を引いて“いくら残ったのか”、または、“いくら足りなかったのか”という一年間の経営の成績表なんですね。ただこれには、借入金だとか、そういったものの返済は入っておりません。“サービス活動収益”というのがありまして、要するに収入のことなんですが、楡の会では先ほどからも言っているように、医療と福祉の融合体ですので、障害福祉サービス費等事業収入と、医療事業収入があります。サービス活動費用の中には、人件費、事業費、事務費、減価償却、償却費などが含まれます。人件費というのは、給料、賞与などの総支給額と、法定福利費からなり、この法定福利の中には、健康保険料とか厚生年金料、労働保険料等の事業主負担、約15パーセントぐらいが含まれます。健康保険料と厚生年金料は、事業主と被保険者との折半となっています。ですから、退職された場合の任意継続保険とか入られる場合には、現在引かれている健康保険料の倍額が任意継続保険料になると理解していただけたらと思います。

次に、事業費ですね。事業費というのは、水道光熱費、燃料費、リース料、車両費、その他に医薬品費だとか材料費だとか保険料とかの、直接的な経費のことを言います。事務費というのは、福利厚生費、事務消耗品費、修繕費、業務委託費、研修・研究費、通信運搬費、土地建物賃借料、保守料など、“間接的な経費”と呼ばれています。減価償却費は、年数がたつにつれて、価値がだんだん減少していく、建物とか什器備品に対して、使用する期間、つまり耐用年数ですね、その中で徐々に費用にしていくもので、現金が動くことのない費用ということになっています。この収入から支出を引いたものが、“サービス活動増減差額”という本業の利益ということですね。それから、本業以外の収入から支払利息なんかを引いたものを、“サービス活動外増減差額”と言います。本業の利益から、本業以外の収益を更に引いたものが、“経常増減差額”という、総合的な収益性を表す大事な数字です。

『貸借対照表』、バランスシート(*Balance Sheet*)と言いまして、略すとB/Sなんですけど、これについて説明させていただきます。貸借対照表は、期末における財政状態を知る帳票です。先ほどの『事業活動収支計算書』の“当期活動増減差額”が、純資産の部に計上され、計算されます。現金・預金残高と請求しているけど入金されていない未収金がどれだけあるか、というのが流動資産というところに入るんですけども、固定資産というのは土地建物や減価償却費。流動資産と固定資産で、最終的に下にある資産の部の合計ということになります。この資産に対して、負債の部では、流動負債という1年以内には返済する短期借入金とか請求されているけど払っていない未払い金、固定負債と呼ばれる長期借入金、設備資金であるとか、運営資金、5年とか10年とかそれ以上で返済する借入金がどれくらいあるか

全体会Ⅲ

が負債の部、ということになります。その下に純資産の部というものがありますが、これは退職積立金など。当期活動増減差額等の合計が、負債及び純資産の合計ということになって、負債の部と純資産の部の合計のバランスがどうかということになってます。ちなみに、昨年私が話した時に、ホームページ上に載ってますよという話しをしたんですが、見られた方いらっしゃいますか？うちのホームページの中に、決算資料が入っていたのですが。

その他にはあと『資金収支計算書』というキャッシュフロー(*Cash Flow*)、略してC/Fですね。これは家計簿的なもので、この支出の中には借入金の元金返済も含まれています。実際に得た収入から支出を引いて、最終的に手元にどれだけ残ったかということがわかる帳票です。ちなみに、平成26年度決算では、700万くらいが手元になったことになっております。債務超過ではございませんのでご安心ください。

2. 平成26年度 決算報告

財務諸表の読み方が説明してわかっていただけたかどうか、ちょっと分かんないですが、実際には今度、平成26年度の決算資料の『事業活動収支計算書』を見てみましょう。始めに、サービス活動収入計が、1000円単位ですので、8億2034万8千円。そのうち人件費が、5億3802万6千円。人件費率で言うと66パーセント。次に事業費が6533万9千円で8パーセント。事務費が1億3306万4千円で16パーセント。減価償却費3995万円で5パーセント。それと、国庫補助取り崩しが、マイナス716万6千円で、マイナス1パーセント。サービス活動増減差額が、5112万7千円で6パーセントとなっております。その他にさっき言った、サービス活動外増減差額というのがマイナス778万1千円。経常増減差額が4334万5千円。当期活動増減差額が5323万5千円となっております、かなり優良と思います。これも一重に皆様方の活躍の賜物と感謝しております。

3. 平成27年度 決算見込

続きまして、平成27年度決算見込みの『事業活動収支計算書』を見てみましょう。サービス活動収入計は、平成26年度より1.04倍伸びておりまして、8億5316万1千円となっております。人件費は5億6822万6千円で、67パーセント。事業費は5526万4千円で6パーセント。事務費は1億3469万5千円で16パーセント。減価償却費が4016万1千円で5パーセント。国庫補助取り崩しがマイナス741万2千円でマイナス1パーセント。サービス活動増減差額は、6222万7千円で7パーセントとなっており、サービス活動外増減差額は、マイナスの1251万9千円。経常増減差額は4963万5千円。当期活動増減差額は4963万5千円となっておりまして、26年度、27年度、二期に渡って黒字ということになっております。

4. 平成28年度 予算

最後に、昨日から始まっておりますが、平成28年度予算の『事業活動収支計算書』を見てみましょう。サービス活動収入計が8億5450万8千円で、平成27年度より130万円ほどの伸びに留まっております。これは収入の頭打ちなのかどうかというのは精査中ではあります。その中で、人件費が6億151万8千円で70パーセント。事業費が、5970万4千円で7パーセント。事務費1億3020万3千円で15パーセント。減価償却費3976万8千円で5パーセント。国庫補助取り崩しがマイナス712万7千円でマイナス1パーセント。サービス活動増減差額が3044万1千円で4パーセントとなっており、サービス活動外増減差額は、マイナス1360万9千円。当期活動増減差額は1683万2千円となっております。これでも26、27、28と、この目標に達すれば三期連続黒字ということで、願ってもいない話なんです。

5. その他

そもそも、何故黒字が必要かということになりますと、さっき施設長とかもおっしゃってましたように、職員の生活の安定とか、法人の運営、増改築だとか建て替えだとか、新規事業の設備資金に充てる、または、銀行から借り入れるために、有利な借り入れができるようにするためには、黒字が必要だということです。ですから、1人1人がコスト意識を持って、予算達成に向けて頑張りましょうという話なんです。ぜひぜひ楡の会というチームで、コンプライアンスを順守して、利用者さんとか患者さんとか、をサポートしていきましょう。よろしく願いいたします。ご清聴ありがとうございました。

《質疑応答より》

●日々の業務の中で意識できる経費削減以外の経営黒字化の理由

ポンペエにわが収入増に切り替わられた、長沼サテライトを始めたとかそういったことが、収入では伸びたのかなという感じと、ヘルパータックが ACT 棟に引っ越ししてきて家賃が不要になったとか。あとは駐車場の土地を買ったために、借りていた料金がかからなくなったとか。以前は道銀だったのですが、みちのく銀行に借入金の借り換えをして、メインバンクを変更したというのがだいたい大きなところかと思います。あと細かいことなのですが、節約といいますか、シャワートイレの便座の蓋は閉めておくとか、あと、冷暖房の設定をもうちょっと適正にできないかとか、不要な電気を消すとか、ホントに小さなことなのですが、これだけ大きな、たくさんの事業所があるところですので、そういった積み重ねが経費の節減にもつながっていくのかなとは思っています。

●処遇改善手当について

処遇改善手当というのはまあ、楡の会では賞与で還元しております。27年度の賞与の総額が8690万円ほどありまして、そのうち2629万円が処遇改善手当として支給しております。この処遇改善手当というのは、うちの場合は賞与で支給という形にはしておりますが、ま、他の事業所さんは、毎月毎月手当として出しているところもあるかもしれませんし、あとは、基本給にのっけているところもあるのかもしれない。選択は事業主に委ねられているので、1つの方法ではないということをご承知ください。